

第1章 国語教育と日本語教育

- ▼第二言語
- ▼4技能
- ▼JSL、JFL

第2章 日本語学習者

- 1) 留学生
 - ▼JLPT、EJU、JFT-Basic
 - ▼JF 日本語教育スタンダード
 - ▼日本語教育の参照枠
 - ▼CEFR“Common European Framework of Reference for Languages”（ヨーロッパ言語共通参照枠）
 - ▼行動中心アプローチ
- 2) 外国人労働者
 - ▼技能実習生
 - ▼特定技能1号・2号
 - ▼高度専門職1号・2号
- 3) 南米日系人とその家族
- 4) 難民
- 5) 看護師・介護福祉士候補生
- 6) 短期滞在者
- 7) 帰国子女
 - ▼CLARINET、かすたねっと

第3章 外国語教授法の歴史

- 1) 文法訳読法／文法翻訳法／GTM, Grammar-Translation Method
※16c頃～19c中頃
- 2) 直接法 ※19c
 - ▼ナチュラルメソッド
 - ▼シリーズメソッド／サイコロジカルメソッド (by グアン)
 - ▼ベルリッツメソッド (by ベルリッツ)
 - ▼フォネティック・メソッド
 - ▼オーラル・メソッド (by パーマー)
 - ▼「話す・聞く」を習得するための5習性
 - ▼GDM, Graded Direct Method (by リチャーズ・ギブソン)
 - ▼ゲシュタルト心理学
 - ▼ベーシック・イングリッシュ
- 3) アーミーメソッド／ASTP, Army Specialized Training Program
※1939-1945
- 4) オーディオリンガル・メソッド／AL法／オーディオリンガル・アプローチ (by フリーズ) ※1950年代
 - ▼構造(主義)言語学
 - ▼パターンプラクティス、ミニマル・ペア、ミム・メモ練習
 - ▼行動(主義)心理学
 - ▼習慣形成理論
- 5) コグニティブアプローチ／認知学習法 ※1960年代
 - ▼認知心理学
 - ▼生成文法 (by チョムスキー)
- 6) 人間主義的(ヒューマニスティック)な教授法 ※1960～70年代
 - ▼サイレント・ウェイ (by ガッターニョ)
 - ▼コミュニティ・ランゲージ・ラーニング／CLL, Community Language Learning (by カラン)
 - ▼TPR, Total Physical Response／全身反応法 (by アッシャー)
 - ▼サジェストペディア (by ロザノフ)

7) VT 法／ベルボ・トナル法 (by グベリナ) ※1954 年

▼言調聴覚論

8) SAPL (サプル), Self Access Pair Learning (by ファーガソン)
※1970 年代

9) コミュニカティブ・アプローチ／CA, Communicative Approach／
CLT, Communicative Language Teaching ※1970 年代

▼クラス活動

(インフォメーション・ギャップを使った活動、ロールプレイなど)

▼実際のコミュニケーションに含まれる3つの要素

①インフォメーション・ギャップ ②チョイス ③フィードバック

▼コミュニカティブ・アプローチの指導原則 (by モロウ)

▼コミュニカティブ・コンピテンス (by ハイムズ、カナル&スウェイン)

①文法能力 ②社会言語能力 ③談話能力 ④ストラテジー能力

▼概念シラバス、機能シラバス

10) タスク中心の教授法 / TBLT, Task-based Language Teaching
(by ロング) ※1990 年代

▼フォーカス・オン・フォーム, Focus on Form

▼フォーカス・オン・フォームズ, Focus on Forms

▼フォーカス・オン・ミーニング, Focus on Meaning

11) 内容重視の教授法 / CBI, Content-Based Instruction ※1980 年代

12) CLIL (クリル), Content and Language Integrated Learning /
内容言語統合型学習 ※1990 年代

13) 協働学習 (ピア・ラーニング) ※近年

14) ナチュラル・アプローチ (by テレル・クラッシェン) ※1980 年代

▼モニターモデル (クラッシェンの第二言語習得に関する 5 つの仮説)

①習得-学習仮説

②自然 (習得) 順序仮説

③モニター仮説

④インプット仮説

⑤情意フィルター仮説

第4章 第一言語習得と第二言語習得

1) 第一言語習得理論

- ▼習慣形成理論 (by スキナー)
- ▼生成文法理論 (by チョムスキー)
- ▼用法基盤モデル (by トマセロ)
- ▼第一言語の習得順序の研究 (by ロジャー・ブラウン)

2) 臨界期仮説 (by レネバーク)

3) 第二言語習得理論

<習得順序>

- ▼自然(習得)順序仮説 (by クラッシュェン)
- ▼創造的構築仮説 (by デュレイとバート)
- ▼処理可能性理論 (by ピーネマン)

<ノン・インターフェイス、インターフェイス>

- ▼習得-学習仮説 (by クラッシュェン)
- ▼自動化
- ▼明示的知識、暗示的知識

<インプット>

- ▼インプット仮説 (by クラッシュェン)
- ▼アウトプット仮説 (by スウェイン)
- ▼インターアクション仮説 (by ロング)

▼意味交渉

- ▼気づき仮説 (by シュミット)

▼インテイク

- ▼誤用訂正

▼明示的訂正、暗示的訂正 (リキャスト)、プロンプト

4) 誤用研究

<対照分析研究>

- ▼言語転移 (正の転移、負の転移)
- ▼母語干渉

<誤用分析研究 (by コーダー)>

▼ミスイク、エラー

▼グローバルエラー、ローカルエラー

▼言語間エラー、言語内エラー (①過剰 (一) 般化 ②簡略化)

▼回避

▼語用論的転移 (プラグマティック・トランスファー)

<中間言語研究 (by セリンカー)>

▼化石化 (定着化)、U 字型発達

第5章 言語と心理

1) 第二言語習得に影響する学習者の要因

▼動機づけ

▼統合的動機づけ、道具的動機づけ

▼内発的動機づけ、外発的動機づけ

▼認知スタイル (場独立型、場依存型)

▼言語適性

▼MLAT

▼適性処遇交互作用

2) 学習者のストラテジー

▼コミュニケーション・ストラテジー

▼学習ストラテジー

▼直接ストラテジー

①記憶ストラテジー ②認知ストラテジー ③補償ストラテジー

▼間接ストラテジー

①メタ認知ストラテジー ②情意ストラテジー ③社会的ストラテジー

3) 学習理論

▼状況的学習／社会文化的アプローチ (by レイヴとヴェンガー)

▼正統的周辺参加 (LPP)

▼社会的構成主義 (by ヴィゴツキー)

▼最近接発達領域 (ZPD The Zone of Proximal Development)、 スキャフォールディング (足場掛け)

4) 言語と文化

- ▼文化変容モデル(アカルチュレーションモデル)
- ▼適応理論(アコモデーション理論)

5) バイリンガリズム

- ▼同時バイリンガリズム、連続バイリンガリズム
- ▼バイリテラル、ダブルリミテッド
- ▼コードスイッチング

<言語能力による分類>

- ▼均衡バイリンガル、偏重バイリンガル、限定バイリンガル

<バイリンガリズムの理論 (by カミンス)>

- ▼敷居理論
- ▼発達相互依存仮説
- ▼生活言語能力 (BICS, Basic Interpersonal Communication Skills)
学習言語能力 (CALP, Cognitive Academic Language Proficiency)
- ▼共有基底言語能力モデル (氷山説、CUP モデル, Common Underlying Proficiency Model)
- ▼分離基底言語能力モデル (風船説、SUP モデル, Separate Underlying Proficiency Model)

<バイリンガル教育>

- ▼サブマージョン教育、移行型バイリンガル教育、イマージョン教育、
維持型バイリンガル教育、双方向バイリンガル教育

<アイデンティティとの関係による分類>

- ▼加算的(付加的)バイリンガリズム、減算的(削減的)バイリンガリズム

<年少者への日本語教育の現状>

- ▼入り込み授業、取り出し授業
- ▼特別の教育課程
- ▼JSL カリキュラム
 - ①トピック型 ②教科志向型

第6章 言語の処理と理解

1) 記憶

- ▼二重貯蔵モデル
- ▼感覚記憶、短期記憶
- ▼ワーキングメモリー
 - ▼リーディングスパンテスト、リスニングスパンテスト
- ▼維持リハーサル
- ▼短期記憶から長期記憶への転送
 - ▼チャンキング、体制化、精緻化リハーサル、生成効果
- ▼長期記憶
 - ▼宣言的記憶(①意味記憶 ②エピソード記憶)、手続き的記憶
 - ▼メンタル・レキシコン(心的辞書)
- ▼プライミング効果、新近効果、初頭効果

2) 言語理解

- ▼スキーマ(①内容スキーマ ②形式スキーマ)
- ▼スクリプト
- ▼トップダウン処理(スキミング、スキヤニング)、ボトムアップ処理
- ▼先行オーガナイザー
- ▼橋渡し推論、精緻化推論

第7章 言語と教育

1) 様々な授業形態

2) コースデザイン

- ▼ニーズ調査、レディネス調査
- ▼プレースメント・テスト
- ▼目標言語調査、目標言語使用調査
- ▼シラバス・デザイン
 - ▼シラバスの種類(構成内容で分けた場合)
 - 概念、機能、文法、場面、話題、タスク、技能シラバス
 - ▼シラバスの種類(確定時期で分けた場合)
 - 先行、後行、可変シラバス

▼カリキュラム・デザイン

▼ヒドウン・カリキュラム (潜在的カリキュラム)

▼授業の実施

▼評価

▼アチーブメント (到達度)・テスト、プロフィシエンシー (熟達度)・テスト

▼振り返り

▼内省的実践家、自己研修型教師

▼アクション・リサーチ、ティーチング・ポートフォリオ

3) 指導法

<話し方>フォーリナー・トーク、ティーチャー・トーク

<質問>クローズド・クエスチョン、オープン・クエスチョン

提示質問、指示質問

<授業の流れ>

<教室活動>

▼聞く&書く: ディクテーション、ディクトコンボ

▼話す

▼読む: 速読、精読

▼書く 初級: 制限作文アプローチ、ガイドド・コンポジション

中・上級: 新旧レトリックアプローチ、プロセス・アプローチ、

パラグラフ・ライティング

<協働学習 (ピア・ラーニング) での活動>

▼聞く&書く: ディクトグロス

▼読む: ピア・リーディング

▼プロセス・リーディング、ジグソーリーディング

▼書く: ピア・レスポンス

<学習者オートノミー (自律学習)>

<ビリーフ>

4) 日本語教育人材に求められる資質・能力の整理